

N P O 法人

子どもの虐待防止 ネットワーク・かがわ

ニューズレター No.32



「春」には桜が咲いて、新しい生活がスタートして、何だか明るいエネルギー溢れるイメージがあります。しかし実際は…例年春の陽気な、うららかな日はわずかな限られた数日です。天候は不安定で何かと体調がすぐれず、気持ちも落ち込みやすくなる時期です。特に今年の春はとりわけ寒暖差が激しく、またいろいろな病も流行してしまいましたので、体調の管理が難しかったことと思います。寒暖差や気圧の変化、そして新生活への対応など生活を取り巻く環境が変化するので、その対応に身体も気持ちも追われて、気が付くとため息をしている、そんなことが多かったのではないのでしょうか。私自身寒さが苦手で、いろいろな防寒対策を練って冬を耐えています。3月になり、春らしい日差しはあるのに、気温は冬並みな日が続くと、天気や気温に一喜一憂して、気持ちがふさぎ込んでしまいます。このような気持ちの落ち込みは、人間の幸せな気持ちをつかさどるセロトニン、オキシトシン、ドーパミン等のホルモンバランスの乱れが大きく影響しています。ホルモンの詳しいお話は割愛しますが、春は環境の変化によるストレス、寒暖差や日照時間の変化による自律神経の乱れ、そして季節の変わり目という気象の変化は心身ともにバランスをとることが難しくなる時期なのです。

人生においての子育て期間は生活の変わり目であり、季節の変わり目のように不安定になりやすい時期です。「春」のような新しい命の誕生で喜びに包まれる一方で、子どもを産み育てるという生活環境の変化により、仕事を離れたり、家族以外の人と会う時間が減ったり、変化に伴う孤独感にさいなまされることも多くなります。健康的に乗り切る方もいますし、一方で糸口を見いだせずに思い悩まれる方もいらっしゃいます。ホームスタートさんの活動はそんな孤独を感じる子育て家庭の、まさに「家庭の中」に入られて、春の光のような暖かさを差し入れる活動なのではないのでしょうか。

支援を必要とする子どもたち、そしてその家庭に少しでも笑顔が増えるように、私たちができることは小さくとも、会員の皆様ができる事を長く続けて、支援の輪をたくさんつなげていけるといいな、と思います。気候も生活も、ようやく安定してきたところです。今年も1年、ともにがんばりましょう。

ホームスタート・おりーぶ 運営委員
高橋 賀代 (公認心理士・臨床心理士)

研修報告

日本子ども虐待防止学会 第30回学術集会かがわ大会に参加して

2024年11月30日、12月1日

■大会企画シンポジウム 不適切な保育の背景と改善

県内で初めて開催される本学会に参加してとてもうれしく思いました。私は何を皆さんに報告しようかと分科会の選択に迷いましたが東洋大学の高山静子先生の「不適切な保育の背景と改善」を選びました。

最近、テレビ等で保育士の「不適切な関わり」のニュースが流れることがあります。ニュースを見るたびに「何でこんな事が起こるの？」と不思議でした。

そんな中で、高山先生の「適切な保育現場にする為」の話題提供はすごく分かりやすかったです。高山先生は、養成学校では、音楽、図工、体育等の技術は学びますが「子どもとの関わり方を学ぶ科目はありません。」と言われました。その為、養成課題を補う方法として保育士が関わり方の技術を習得する為に園内研修は、不適切な関わりをなくす為にも必要不可欠な方法だと話されました。保育所等は、毎日忙しい現場ですが「子どもまん中」という考えの基、クラスの保育士数人で本の読み合わせと意見交換をパート職員も入り、3か月に1回20分程度するだけでも良いとの事でした。子どもの声を聞こうとする練習をしたり、自分達の保育を考え同僚と一緒に少しずつ高まりあっていく等、園内研修を継続する事により「怒鳴っていた先生が別人のようになり、パート職員や新人の保育士の憧れの保育士になった」「若い先生達は、自分達は間違ってたなかったと元気になった」等変化が出て来ました。

この様にして、保育士が専門性を持つ事で子どもへの信頼を育み、笑顔のなかった子どもを笑顔にして家庭に返すことができます。又、保護者にも新しい育児モデルの習得を支援でき、専門職として親子の関係性を助け虐待の未然発生予防は進みます。と締めくくられました。 小西

■委員会・WG企画シンポジウム 「自分を傷つけるこどもたち」～子どもの心の居場所問題～

初めて参加した学会。プログラム集を見て、これもあれも聞きたいと思った。当日、会場ではパネル展示もあり、こんなにもたくさんの人が支えているにも関わらず、悲しいニュースは後を絶ちません。

山梨県立大学大学院の奥山先生西澤先生座長の、このシンポジウムでは、不登校、摂食障害、自殺どれも増加していて、虐待やネグレクトが、家庭に心の居場所のない子どもたちの自殺の危険因子になる。子ども達の本音に迫るにはどうしたらよいのか。いわゆるト一横で大人に信頼を寄せない子ども達に様々な法的行政メニューは届かない。そのト一横で長年ボランティア活動を続けてきた方の生の声を聞くことができた。児童相談所一時保護所に保護され医療に繋がったが、つながりにくい要因や経済的な調査を通じて子ども達の言葉にならないメッセージを受け止めることが求められている。

ト一横のことは、私には遠いことのように思えるのだが、子どもの心の居場所問題は、気になるところだ。子どもだけでなく、みんなが安心して暮らせることを切に願って今後の活動を続けていきたいと思う。 窪

活動報告

2024年度は、赤い羽根共同募金“子どもの虐待を防止するためのプロジェクト募金”並びに、多くの方からのご寄付により活動することができました。また2025年1月～3月実施の“子どもの虐待を防止するためのプロジェクト募金”は2025年度の活動に使わせていただきます。心より感謝申し上げます。

—「ひだまり」— (子どもの虐待防止に関するグループワーク事業)

子育てに悩んでいる母親が安心して悩みを話せる場です。参加者が対等な立場で話し合い、悩みを共感しあうことで自助力を高め、自分の問題を解決できるように支援します。

- 年8回開催 利用者は延べ50人（母親は16人、子どもは34人）でした。
「ひだまり」は令和7年4月から休止しています。

—勉強会— (子どもの虐待防止に関する啓発及び推進事業)

子どもアドボカシーについての勉強会

『こどもアドボカシーと当事者参画のモヤモヤとこれから』明石書店、栄留里美、長瀬正子、永野
子どもアドボカシーとは何か、子どもの権利を尊重することはどういうことかを学びました。

フランスの子どもの福祉についての勉強会

『一人ひとりに届ける福祉が支える フランスの子どもの育ちと家族』かもがわ出版、安發明子
フランスでのソーシャルワークは「困っている人を助ける」ではなく、すべての人に居場所がある世の中になるよう働きかける。ソーシャルワーカーの役目は福祉が行き届いているか目を配り、福祉につなげること。子どもにとって、親が支えられ、より自分らしく生き、ソーシャルワークによる家族環境の改善を感じて育つ。

助けを求められない心理についての勉強会

『「助けて」が言えない』日本評論社、松本俊彦編

困った状況にありながら援助につながらない場合、援助希求能力が乏しいと言われる。依存症支援、虐待防止、被害者支援、地域精神保健福祉、さまざま領域の支援困難事例のSOSを出せない状況や理由、理解や対応のヒントを学びました。

DV被害者母子についての勉強会

『DVに曝された母子を支援する コンカレントプログラム・マニュアル』金剛出版、RRP研究会

カナダで生まれた「母子コンカレントプログラム」を日本社会の実情に即して翻案されたものです。被害者支援に長年かかわってきた臨床家たちの経験の知と実践の技を学びました。



妊娠期からの家庭訪問型子育て支援「ホームスタート・おリーぶ」

■内 容：出かけられない家庭に、研修を受けた子育ての先輩（ホームビジター）が訪問し、フレンドシップな関係でサポート（傾聴と協働）をします。

■利 用 料：無料

■対 象：妊産婦や未就学児のいる家庭

■地 域：香川県内

■支援回数：1週間に1回2時間程度、7回～10回ほど訪問します。

問い合わせ・申し込み：☎080-2985-1556 [eメール kcavn9999@siren.ocn.ne.jp](mailto:kcavn9999@siren.ocn.ne.jp)

2024年度実績

利用者(世帯数)46(その内、妊婦 5、多胎家庭 5)、総訪問回数 298回

居住地(世帯数)高松市34、三豊市7、観音寺市2、善通寺市2、宇多津町1

I 高松市委託事業

①子育て世帯訪問支援事業

訪問状況：利用者(世帯数)23、総訪問回数113回

○ホームビジターフォローアップ研修

日 時：2025年2月28日(金)13:00～15:00 出席者：9人

テーマ：「相談から見える母親・子ども・親子の現状や背景」

講 師：マインドファースト理事長・臨床心理士 島津昌代氏

○運営委員会

日 時：2025年3月20日(木)13:45～15:00 会場：高松市田村文化センター

テーマ：R5・6年度の活動報告、利点と課題、R7年度の予定、今後の団体体制について

出席者：5人

②多胎妊産婦支援事業

○訪問状況：利用者(世帯数)5、総訪問回数16回



■内 容：育児支援・家事支援・外出支援

■利 用 料：無料

■対 象：高松市内の多胎妊婦・多胎家庭

■支援回数：年間10回・3歳まで最高30回

II 三豊市委託事業

①産前産後サポート事業

訪問状況：利用者(世帯数)3、総訪問回数25回

○ホームビジターフォローアップ研修

日時：2025年2月17日(月)10:00～12:00 会場：三豊市保健センター

テーマ：「親子との関わり方」～赤ちゃんの抱き方から困難家庭の支援まで～

講 師：みゆき助産院 助産師 竹内美由紀氏 出席者：6人

○運営委員会

日時:2025年2月17日(月)13:30~15:00 会場:三豊市保健センター

内容:R6年度の活動報告、当会の体制変更について等 出席者:8人

②養育支援訪問事業

訪問状況:利用者(世帯数) 1、総訪問回数 12回

③委託外訪問

訪問状況:利用者(世帯数) 6、総訪問回数 38回

地域別:三豊市 3、観音寺市 2、善通寺市 1

④ホームスタート・ホームビジター養成講座(毎週1日 9日間)

実施期間:2024年10月9日~2024年12月10日

会場:三豊市危機管理センター 参加者数:延87人(実5人)、登録:3人

Ⅲ-1 香川県ホームスタート・ホームビジター養成講座(毎週1日 9日間)

実施期間 2024年9月3日~2024年11月5日

会場:香川県中讃保健福祉事務所 参加者数:延118人(実6人)、登録:6人

Ⅲ-2 香川県多胎妊産婦等支援サポーター派遣事業

実施期間:2025年1月4日~2025年3月31日



ホームビジター養成講座の受講者から、こんな感想が聞かれました



自分が子育て真っ最中の頃、知り合いに、ネグレクトを受け児童養護施設に預けられた子どもがいました。母子家庭であり、周囲に生活を助けてもらえず、お母さんも大変だったと思います。その時の私は、何もできませんでした。今でもずっと、何もしなかった自分を責めていました。子育てがほぼ終了という時期に差し掛かり、高松市の広報で多胎妊産婦支援事業を知り、自分も何かできるのでは・・・と、すぐに応募しました。

実際訪問してみると、久しぶりの赤ちゃんを前に、おばあちゃんになったかのように接する自分がいました。この子達が幸せになりますように…と、初めて会ったあの日から毎日願っています。子どもの幸せは、家族の幸せから成り立つと私は思います。きっとお母さんが幸せなら、子どもも幸せだと感じる事ができるはずです。お母さんが笑顔で過ごせるよう、私にできる事を考え、お母さんが良い選択ができればと思います。

あの時のあの子や、あのお母さんが、今たくさんの人に支えられている事を願い、支える側として一歩を踏み出したいです。

岡崎 由紀

以前から、子どもの教育に関心があり、この講座を受講しました。

現場で指導してきた大学教授の先生、NPO法人の皆様、またこの会の諸先輩方の声を拝聴して、大変感慨深く、私にできるのか不安もありましたが、自分の前の問題をかかえた親子を一人でも救いたい！！という決心の元、無事講座を終了しました。

この会のモットーは「聴くこと」そして「共に時間を過ごすこと」 案外、単純に思えますが、これが結構深いのです。ついつい口を出してしまいそうになるのです。でも共に時間を過ごしていると向こうからしゃべってくれるようになります。何気ない会話に、親子の苦しさが伝わってくることもあります。いまの世の中の会話って難しいですね。

おせっかいな大人が増えて血のつながりなどなくても、社会全体で子育てをしていけるような世界を目指していきたいです。

今岡 佳代

子育て支援の現場で子どもの育成支援を仕事としている私は、子どもに大きく影響のある家庭、特にお母さんへの支援もとても大切だと常日頃から感じています。

ファミサポやアドボカシーにもかかわる中、「ホームビジターのボランティア」という文字に惹かれ、この講座を受講しました。行政の子育て支援施策にも限りがあり、仕事ではなく近所のおばちゃん的气楽な感覚で、目の前の困っている人に寄り添えたらと思ったからです。

ホームビジターにも手続きの簡素化や周知方法など改善点はあると感じましたが、講座のなかでは、さまざまな角度からたくさんの学びがありました。

残念なことに、まだ訪問の機会がありませんが、新しい出会いと誰かの伴走者になれる時をわくわく楽しみに待っています。

眞鍋 範子

ホームスタート訪問日、私がぐずり始めた下の子を抱っこしながら上の子と遊び始めると、ママさんは穏やかな様子で台所に立たれました。夕食の準備をされるママさんの後姿を見ながら、初めての子育てに悩みながら右往左往していた自分自身の記憶がふっと蘇ってきました。

通勤族で近所に知り合いもなく、狭いマンションの一室で一歳の娘と2人きり。2人目を妊娠中で辛いつわりと闘いながら、何度も心が折れそうになった日々。「わかる！わかる！うん。うん。私もそうやったわ…」心の中は共感の嵐となり、自然と下の子を抱く手が強くなり、無邪気に遊ぶ上の子をより愛おしく感じるのです。

気の利いたことはなかなか言えない私ですが、養成講座で学んだ「ホームスタート8つの原則」をしっかりと心に刻み、子育て中のママさんやパパさんにそっと寄り添うことのできるホームビジターであるため、日々精進していきたいと思っています。

大藤 忍

日本では今、一人世帯が一番多い。学校では同じ景色を見せるため特別扱いをする。子どもは地域で育てる時代になったなど、研修では、初めて耳にし考えさせられる内容が多かったです。ホームスタートの活動をするのに際しては、「傾聴」が一番大事だと感じました。

育児は手間がかかるし正解はありません。そんな中、正しい育児がどういうものなのかを、ある程度信用できるネットに、答えを求める傾向にあります。「子どもは面倒でよく分からない」よくわからないを楽しむことなんて私自身の子育て中はとてもそんな余裕はありませんでした。

初めての訪問、家の中にまで入って活動するのは、不安がありました。今、子育て中の方が、ありのままの子どもを受け入れられるよう、利用者さんの立場に立ちいろいろ想像を巡らせて、子育てしている人もそうでない人も、お互い様の気持ちを持ち、手探りながらも、ホームスタートの活動を、私自身の学びの場としたいと思います。

真鍋 佐代子

ホームビジター(子育て経験者のボランティア)による傾聴と協働

傾聴

話したいこと(不安 / 悩み)を聴く
気持ちを共有、がんばりを認める
傍らにいて、会話を楽しむ
子育ての経験談・情報を伝える

協働

一緒に食事やお菓子を作る
一緒にひろば・健診に行く
一緒に子どもと遊ぶ
一緒に支援の窓口へ行く



「ホームスタート・おりーぶ Facebook」検索



一子育て相談「ひだまり」一 (子どもの虐待防止に関する相談事業)

令和7年度の活動として、毎週火曜日の10時～12時、個別相談をはじめます。

相談室には、子育てや子ども虐待に関する本を置いています。関心のある方は、事務所までご連絡下さい。

掲示板

《2025年度の活動とお知らせ》

- **子育て相談「ひだまり」**
毎週火曜日の10時～12時
- **勉強会**：毎月1回(金)19時～20時半
会場：高松市内コミュニティセンターほか
- **家庭訪問型子育て支援「ホームスタートおりぶ」** 高松市民の方は、高松市子育て世帯訪問支援事業、高松市多胎妊産婦支援業務として、また三豊市民の方は、三豊市産前産後サポート事業、三豊市養育支援訪問事業として実施します。加えて、香川県多胎妊産婦等支援サポーター派遣事業の委託事業では、県内8市町を対象に多胎家庭の支援を始めます。昨年度に続き、ホームビジター養成講座も中讃地域で実施予定です。
- **子育て講座・子育て支援者講座**：詳細は、ホームページ他でお知らせします。
- **講師派遣**：体罰をつかわない子育て、子どもの発達、子ども虐待などの講義ができます。
- **人材育成事業**：家庭訪問型子育て支援「ホームスタート・おりぶ」の活動に関心のある方は、事務所までお問い合わせください。

《会員募集》

会員及び賛助会員を随時募集しております。
ホームページからでも可能です。

★正会員：一緒に活動をしていただける方
(年会費 ¥4,800)

★賛助会員・団体会員：財政面で支援をしていただける方 (年会費 一口¥5,000)

《寄付のお願い》

当会の活動は会員の会費のみが定期収入となっており、事業の運営は助成金や寄付金収入に頼らざるを得ません。子ども虐待を防止するために息の長い地道な活動が期待される中での財政基盤の弱さはいつも心配の種となっております。皆様の温かいご支援を宜しくお願い致します。

<振込先>

郵便振替 01630-5-2437

<加入者名>

(特) 子どもの虐待防止ネットワーク. かがわ

《寄付等でご支援いただいた方々です》

国際ゾンタ高松ゾンタクラブ様、認定こども園春日こども園様、藪内節子様、酒井むつ子様、赤い羽根共同募金「子どもの虐待を防止するためのプロジェクト募金」にご協力をいただいた皆様、匿名でのご寄付やボランティアで活動支援をしていただいた皆様、ご支援有難うございました。心から感謝申し上げます。

特定非営利活動法人

子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ

事務所 TEL：087-888-0758

ホームページ：http://kcapn.sakura.ne.jp

ニューズレターNo.32 2025年6月発行

FAX：087-888-1070

Eメールアドレス：kcapn9999@siren.ocn.ne.jp